



くるみの里の利用者が制作したリンゴのオブジェ

# 作品で彩る 八戸中心街

## 八戸

八戸学院大学人間健康学科の大木えりか講師のゼミが17日、三八地域の障がい者施設と連携して進めていたプロジェクトで制作した作品を、八戸市の八戸ポータルミュージアムはっちで展示した。

（相澤賢斉）

# 八学大と障がい者施設連携

## はっちに40点展示

プロジェクトは、障がいを持つ人たちが制作した作品で市中心街を彩り、にぎわいを創出するのが目的。同ゼミの学生が発案し、市の助成金を受けて実施した。10日には、同市の八戸まちなかひろばマチニワで展示した。作品は同市の障害者サポートセンター「くるみの里」や生活介護事業所「サクラ」、三戸町のNPO法人「どんぐりの家」の利用者が分担して制作。会場にはカラフルな八幡馬や高さ約1・5メートルのリンゴと烏帽子のオブジェ、「11びきのねこ」を題材にした貼り絵など約40点が並んだ。来場者は作品をじっくり眺めたり、貼り絵の前で写真撮影をしたりして楽しんだ。同ゼミの三橋光さん（3年）は「作品を作ってくれた子どもたちが、展示されている様子を見て喜んでくれたのでうれしかった。（作品展示が）障がいを持つ人のことを知ってもらったきっかけになれば」と話した。

同ゼミは、市中心街で1年以上作品を展示してくれる団体を募集している。問い合わせは同大キャリア支援課（電話0178-301700）へ。



どんぐりの家を利用する小中学生が制作した「11びきのねこ」の貼り絵